



新生特別号

大東



令和2年4月25日

コミュニティ・スクール
大野城市立大野東中学校
校長 岩野 展夫

学校の教育目標

「豊かな人間性と自ら学ぶ意欲をもち、
実践力のあるたくましい生徒の育成」
校訓 「創造」「健康」「敬愛」「勤労」

「入学おめでとう」

中学生になりました・・・

一年生のみなさん、御入学おめでとうございます。
みなさんの入学を心待ちにしていました。まだ学校生活は始まっていませんが、一日も早く、この状態が収束し、穏やかな日常が戻ってくることを願うばかりです。

みなさんが自分のよさや可能性を輝かせながら、実り多い中学校生活を送ることを期待して、入学式で直接皆さんにお話ししたかったことを、このおたよりにて伝えたいと思います。それは私からの二つの願いです。

一つ目は、「夢や目標に向かって努力する」ということです。中学校は、小学校と違い、3年後には義務教育が終わり自分の力で自らの道（進路）を切り開いていかなければなりません。3年後の自分の進む道は、10年後、20年後の自分の人生とも大きく関係しています。それ故、中学校では将来を見据えながら、今日行すべき学習を着実に進め、夢や目標を現実近くに近づけていくことが求められます。しかし、自分の夢や目標がまだはっきりしない人も多いと思います。そういう場合には、小さな目標をたてて、一つずつ実現していくことや、読書を通して先人に学んだり、地域の方や保護者の方など人生の先輩方と接したりしていく中でこれからの生き方を考えること、また、何にでも積極的に挑戦することなどが大切です。そうすることで自分のやりたいことが見えてきて、それが夢や目標につながっていきます。中学校の3年間はあっという間に過ぎ去ります。時を惜しみ、目標を見定め、今をしっかりと生きてください。

二つ目は、「友達を大切にする」ということです。中学校には、大野東小、大野北小、大城小をはじめいろいろな小学校出身の新入生が集まっています。まだ偶然出会っただけの関係で、少し、よそよそしい感じがするかもしれません。しかし、やがて授業や部活動、学校行事などが始まり、互いに協力したり、競い合ったりして、友達と呼べる人間関係ができてくるのです。人間は一人では生きていけません。友達と共に切磋琢磨するからこそ相手も自分も成長することができます。共に汗を流し、共に笑い、共に涙を流すことによって、友達が仲間となり、中学校生活が充実したものになっていきます。中学校生活は、長い人生の中で、最も成長できる、大切な時期です。一日も早く中学校生活に慣れ、充実した毎日をおくって欲しいと願っています。今までの殻にとらわれず、新しい自分を見つけ、また、友達の素晴らしいところに学び、自分を鍛え、互いに励まし合いながら、一步一步大人に近づいていってほしいと思います。頑張ってください。



「保護者の皆様へ」

今年2月27日、小学校の卒業式を目前に、新型コロナウイルス感染拡大防止策として学校の休業要請が出されてから2ヶ月あまりが過ぎようとしています。この間に緊急事態宣言が発令され、学校の休校はさらに延長され、先が見通せない中、ご家庭におかれましても、不安な思いを抱かれ、日々の生活にご苦労されていることと案じております。本校においても、生徒のいない学校は生気を失ったかのような静けさで、毎日悶々とした、辛い日々が続いており、一日も早い学校の再開と、子どもたちと共に教育活動を進めていけるよう祈るばかりであります。

さて、それはさておきまして、あらためましてお子様の中学校へのご入学誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

中学生という時期は、自我が形成され、個が確立し、大人への第一歩を踏み出す大切な時期です。この3年間で、周りが驚くほど、肉体的にも精神的に逞しく成長をします。また、生徒同士の人間関係も表面的なものから深まっていき、内面的なつながりを強めていく時期でもあります。しかし、この時期はちょっとしたことで、トラブルを起こしたり、自信を失ったりと精神的に不安定になりがちな時期でもあります。人間は様々な困難や失敗を乗り越えてこそ成長をするものであり、我々大人の責務はこうした生徒の成長の過程を見守り、時には鍛え、時には褒め励まししながら適切な支援を行うことだと思っています。学校は生徒の学びの場であり教育機関です。教師は教育の専門家であります。しかし、個々のお子様を一番よく知り、その子にとっての最大の教育者はそれぞれのご家庭だと思っています。集団で教育する学校と一人のお子さまを教育する家庭とが、同じ方向を向き協力し合うことが、生徒個々の成長には欠かせません。ぜひ、学校と家庭とがしっかりと連携し一人一人のお子様の成長のために力を合わせていきましょう。何かわからないことや、疑問を持たれたのであればすぐに学校まで連絡をしてください。

「共に理解し合いながら、一番は子どものために」をキーワードに取組を進めて参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

